

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 20 年 7 月－輸出は最悪期を脱するも、回復ペースは緩慢

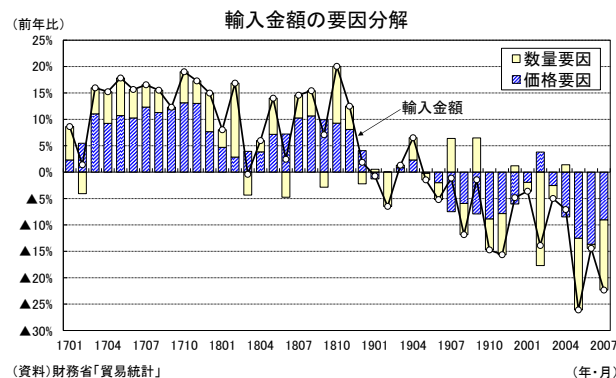
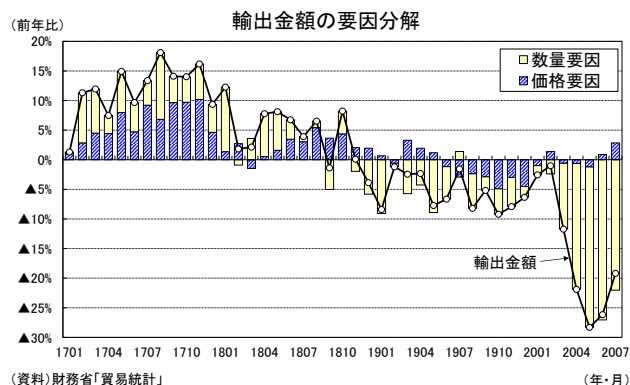
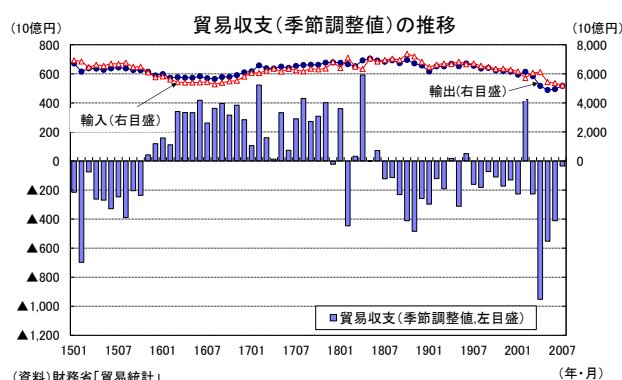
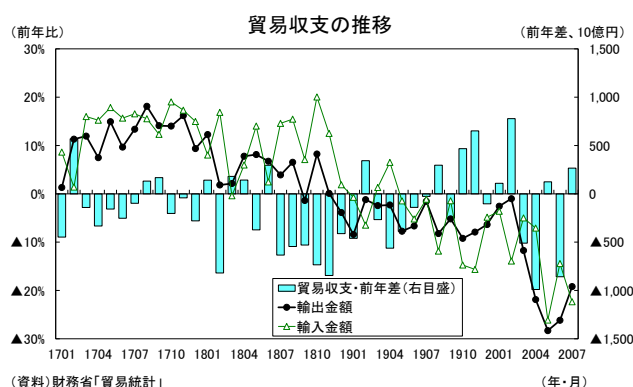
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出の減少幅が縮小

財務省が 8 月 19 日に公表した貿易統計によると、20 年 7 月の貿易収支は 116 億円の黒字となり、事前の市場予想（QUICK 集計：▲900 億円、当社予想は 557 億円）を上回る結果となった。輸出の減少幅が 6 月の前年比▲26.2%から同▲19.2%へと縮小する一方、輸入の減少幅が 6 月の前年比▲14.4%から同▲22.3%へと拡大したため、貿易収支は前年に比べ 2,655 億円の改善となった。

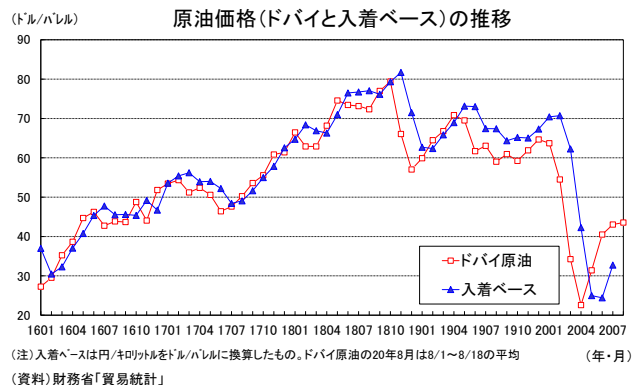
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲21.7%（6 月：同▲26.9%）、輸出価格が前年比 3.2%（6 月：同 1.0%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲14.0%（6 月：同▲0.8%）、輸入価格が前年比▲9.7%（6 月：同▲13.7%）であった。



季節調整済の貿易収支は▲348 億円と 5 ヶ月連続の赤字となったが、6 月の▲4,109 億円から赤字幅が大きく縮小した。輸出が前月比 4.7%と 2 ヶ月連続で増加する一方、輸入が前月比▲2.7%と

3 ヶ月連続の減少となった。

7 月の通関（入着）ベースの原油価格は 1 バレル＝32.7 ドル（当研究所による試算値）となり、6 月の 24.4 ドルから上昇した。原油価格（ドバイ）は 4 月に 20 ドル台前半（月平均）まで下落した後、足元では 40 ドル台前半まで持ち直している。通関ベースの原油価格は、8 月には 40 ドル程度まで上昇することが見込まれる。

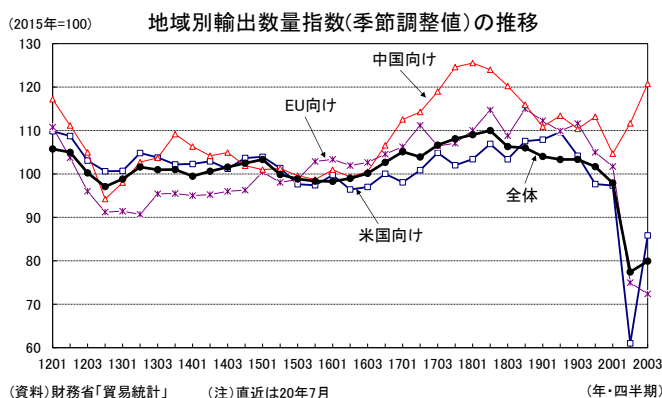


2. 米国向け輸出が自動車を中心に急回復

20 年 7 月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲21.5%（6 月：同▲47.0%）、EU 向けが前年比▲36.7%（6 月：同▲33.0%）、アジア向けが前年比▲11.4%（6 月：同▲17.7%）、うち中国向けが前年比 8.5%（6 月：同▲2.0%）となった。

20 年 7 月の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）でみると、米国向けが前月比 50.2%（6 月：同 4.6%）、EU 向けが前月比▲1.7%（6 月：同 3.9%）、アジア向けが前月比 5.8%（6 月：同▲3.2%）、中国向けが前月比 7.7%（6 月：同▲0.5%）、全体では前月比 3.5%（6 月：同 3.2%）となった。

EU 向けは低迷が続いたが、米国向けが自動車を中心に急回復し、中国向けは半導体製造装置、半導体電子部品の高い伸びから輸出全体としてもコロナ前の水準に近付いている。



世界的な経済活動の再開を受けて、輸出は最悪期を脱したと判断される。ただし、輸出数量指数（季節調整値）は 3 月から 5 月までの 3 ヶ月で 20%以上落ち込んでおり、6、7 月の戻りはその 2 割程度にすぎない。世界的に感染の収束が見えない中で、経済活動の水準が元に戻るまでには時間を要するため、先行きの輸出の回復ペースは急激な落ち込みの後としては緩やかなものにとどまることが予想される。